

第 5 章

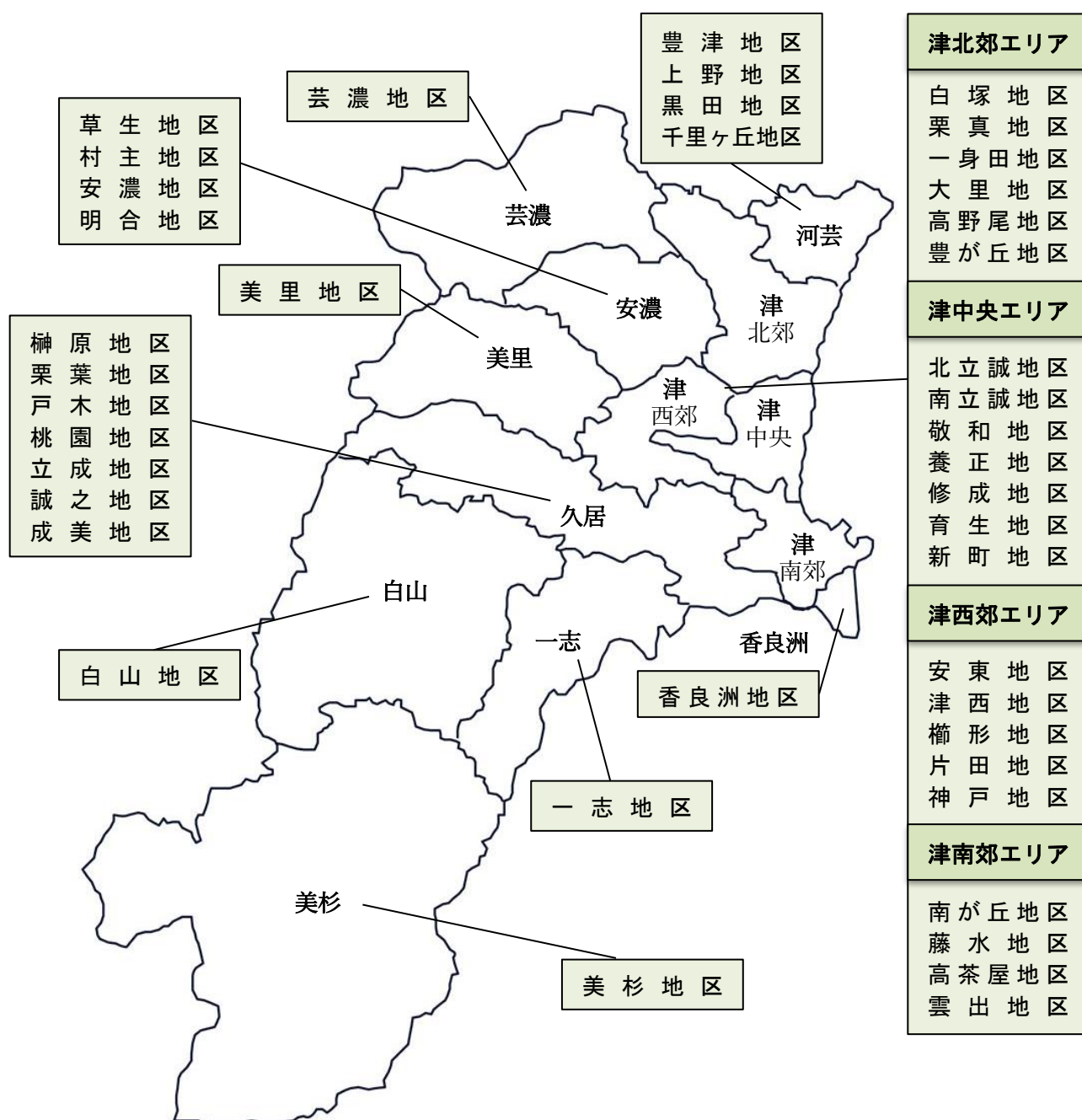
地区別福祉プラン

1 地区別福祉プランについて

(1) 地区社会福祉協議会の役割と地区別福祉プラン作成の目的

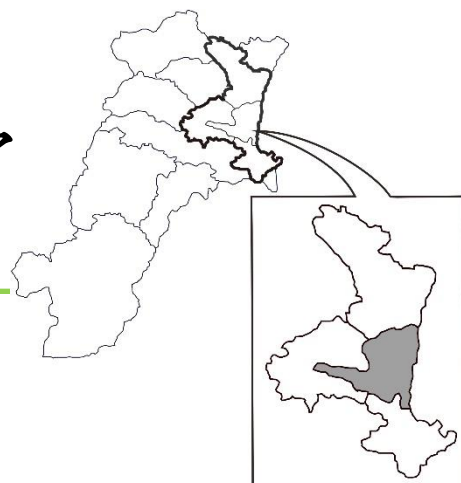
現在、津市内には43の地区社協が設置され、それぞれの地域に根ざした活動が展開されています。津市社協は、地区社協を地域の特性に応じた福祉活動を担う中心的な団体として位置づけ、津市と一体となって互いに連携・協働しながら地域福祉活動を展開し、地域の生活課題の解決を目指しています。

本計画では、地区社協を中心とした住民の参加により各地区（津地区は4エリア）において地区福祉懇談会を開催し、下図に示す13の地域ごとにそれぞれの課題を整理しました。そして、さまざまな課題の解決に向けて、より地域に根ざした具体的な取り組みや、それぞれの地区が今後5年間で目指す方向性を地区別福祉プランとしてまとめました。



①

津中央エリア



- 北立誠地区 ●南立誠地区 ●敬和地区 ●養正地区
- 修成地区 ●育生地区 ●新町地区

地区の現状

国道が中央部を南北に縦断し、エリア内には主要駅、百貨店・飲食店等の商業施設、市役所・県庁等の官公庁施設があり利便性に富んだ地域です。

その反面、課題としては交通量が多いことによる危険や、住宅地が密集していて子どもが遊びにくいこと、海拔の低さから津波への心配があることなどが挙げられます。

・人口	57,241人
・世帯数	28,101世帯
・65歳以上の割合	28.1%
・15歳～64歳の割合	59.7%
・0歳～14歳の割合	12.2%
・地区社協数	7
・自治会数	274

(平成30年10月31日現在)

●地区のいいところ

- ◇住民のまとまりがあり、便利で暮らしやすい。(北立誠地区)
- ◇商業施設等も多く利便性が良い。(南立誠地区)
- ◇買い物や交通の便が良い。高齢化率が高いが元気な高齢者が多い。(敬和地区)
- ◇大型施設が近く利便性が良い。地域の各団体活動が高齢者を中心に盛んである。(養正地区)
- ◇住民交流が盛んで地域のために活動してくれる人が多い。(修成地区)
- ◇子どもにとって安全な環境であり、地域のつながりがある。(育生地区)
- ◇昔ながらの伝統があり、人情に厚いまちである。(新町地区)

●地区の気になるところ

- ◇高齢者が多く子どもが少ない。新旧地区の人口に偏りがあり、世代間の交流が少ない。(北立誠地区)
- ◇団地やマンションが多いため住民同士の顔が見えにくく、若い人に地域の役員を担っても

らえない。沿岸地域のため災害時の対応が心配（南立誠地区）

◇海が近く災害が心配。地域の過疎化、空き家の増加、大門商店街の活性化が問題である。外国に繋がる子どもが増えており、地域における日本語支援が大切になっている。（敬和地区）

◇小地域で集まる場の設定が難しい。地域の行事を支える高齢者と異世代の一体感がない。（養正地区）

◇少子高齢化により、次世代の担い手不足や空き家の問題がある。地域のなかで注意する人や、世話を焼く人が少なくなっている。また、天災が心配（修成地区）

◇地域のつながりがあるが、個人差があり、老人会、子ども会等に参加しない人が増加している。津波の心配があるが避難所等が少ない。（育生地区）

◇少子高齢化が進んでおり、世代間交流が少なく、地域活動の後継者が少ない。（新町地区）

■北立誠地区

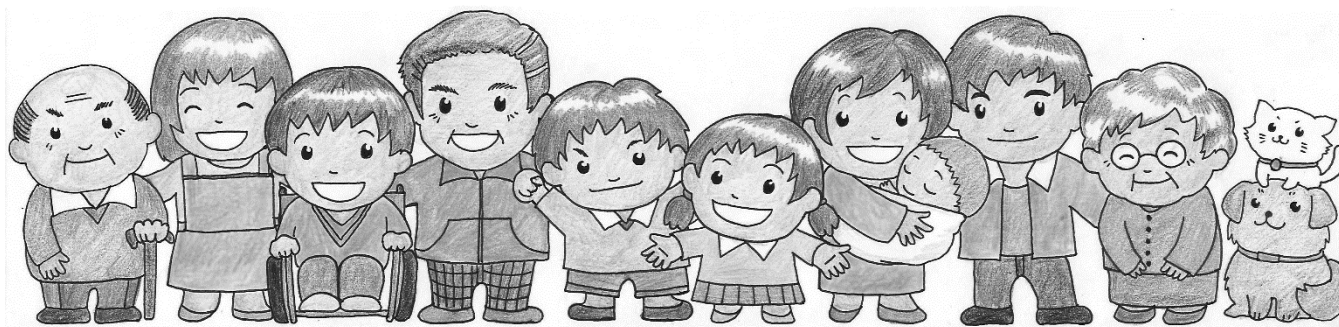
【目指したい5年後の地区の姿】

誰もが安心して暮らせる町を目指す

●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標		取り組み
1	自分のためにみんなが地域をよくする思いをもつ。	⇒ ◇地区運動会の充実 ◇子どもと高齢者のつながりを深める企画をする。 ◇あいさつをする。



■南立誠地区

【目指したい5年後の地区の姿】

ともに支えあい、交流できる場を！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	地域で顔の見える関係を築く。	➡	◇今ある活動を大切にし、世代間交流の場を維持する。
2	子育て世代、地域に関わる意識をもつ。	➡	◇自治会単位の住民の意見交換の場を設ける。
3	リーダーシップをとれる人を見つける。	➡	

■敬和地区

【目指したい5年後の地区の姿】

夢と希望があふれる敬和地区！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	世代を超えた心の居場所づくり	➡	◇授業参観で地域の人に講師で来てもらい防災の話等をしてもらう。
2	国際化の先取り	➡	◇大人が外国の子どもに声をかける、大人の意識を変える。
3	多世代で防災に関心をもち、安心・安全のまちづくりを推進する。	➡	◇子どもから高齢者までのすべての年代層が防災訓練に参加し、協力・助けあいの心を育む。

■養正地区

【目指したい5年後の地区の姿】

地方の魅力を発信し、
戻ってきたくなるまち、養正

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	地域の魅力を発信し、みんなが集まれる場所をつくる。	➡	◇カルガモ、桜、紅葉をチラシなどでPRする。 ◇地域のふれあい会を開催する。 ◇住民が集まれる場所をつくる。

■修成地区

【目指したい5年後の地区の姿】

積極的に地域活動に参加し、
みんなでよりよい修成地区にする

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	地域の仲のいい人間関係、協力関係をつくっていく。	➡	◇日常的な交流（あいさつなど）や（歩いて行けるところに）集いの場をつくる。
2	地域で孤立する人をなくす。	➡	
3	地域の担い手をつくっていく。	➡	◇今、継続できている事業を続けていく。 ◇事業の内容を興味のもてるものにしていく。

■ 育生地区

【目指したい5年後の地区の姿】

今あるつながりと活動をさらに進化させて、
もっともっと笑てんか！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	いくっこサロンをさらに充実させて、地域のつながりをつくっていく。	➡	◇地域の老人会や、地域にあまり関心のない大人へ声かけを行っていく。 ◇新規サロンの立ち上げ（年代別でも可）
2	学校のサポートと子どもたちの安全・安心を守っていく。	➡	◇地域の人に授業等を手伝ってもらうしくみ（スクールサポートボランティア ¹⁸ ）をつくる。 ◇生活のなかで無理のない範囲（犬の散歩中等）で、子どものサポートの充実を図る。

■ 新町地区

【目指したい5年後の地区の姿】

みんなの顔がみえるまちづくりを！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

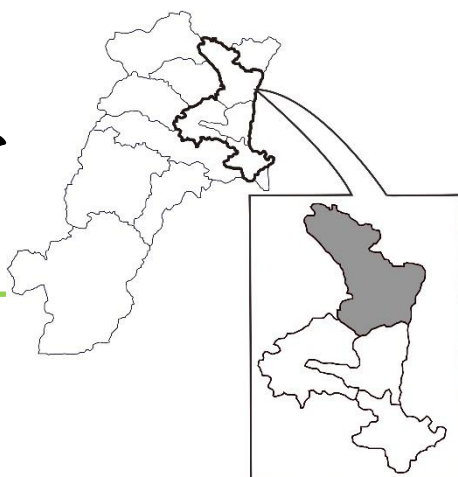
目標			取り組み
1	顔見知りを増やす。	➡	◇行事への参加、勧誘、情報の共有
2	近所付き合える環境をつくる。	➡	◇防災訓練や町内の清掃活動、もちつきへの参加協力
3	地域行事の継続（伝統の継承）	➡	◇行事内容を今よりも全世代に参加してもらえるように企画し、次世代につなげる。

¹⁸ スクールサポートボランティア：学校の教育活動や環境整備等を支援するボランティア

②

津北郊エリア

- 白塚地区 ●栗真地区 ●一身田地区
- 大里地区 ●高野尾地区 ●豊が丘地区



地区の現状

津北郊地域は南北に国道23号線が通り、津関線が横断しています。

東部の沿岸地帯は漁業が行われる一方、津波の心配がある地域です。大学があり、学生が多い地域でもあります。

西部は農業が行われている地域と一部で工業地帯もあります。

公共交通機関が少ないですが、国宝高田本山専修寺等の観光地や県立の施設もあります。

・人口	37,122人
・世帯数	16,578世帯
・65歳以上の割合	27.5%
・15歳～64歳の割合	60.6%
・0歳～14歳の割合	11.9%
・地区社協数	6
・自治会数	112

(平成30年10月31日現在)

●地区のいいところ

◇海に近く、伝統的文化を守り続けている。住民同士の絆が強く、犯罪が少なく住みやすい。(白塚地区)

◇町屋海岸の海岸清掃等を住民と三重大生が協力して行っている。また、栗真小学校の児童会活動が活発である。(栗真地区)

◇歴史と文化を感じる雰囲気がある。地区や神社を通じて行事や祭りごとも多く、地域団体や住民のつながりも深い。(一身田地区)

◇つながりが強く、伝統行事を大切にしている。リーダーもしっかりしていて、みんなが子どもをととても大切に思っている。災害の心配も少なく、交通の便も良い。(大里地区)

◇自然が豊かで空気がきれいであることに加え、津波の心配がない立地。学校を中心に各種団体との交流がよく図られている。(高野尾地区)

◇安心して暮らせる地域づくりに向けて自治会を中心に地域全体で取り組んでおり、集会所等施設も充実している。また、高台にあり自然豊かで環境が良い。(豊が丘地区)

●地区の気になるところ

- ◇少子高齢化が進んでおり、空き地・空き家が多く、後継者不足が課題。また、公共交通機関が少なく、病院や店舗も少ない。外国人居住者が多く、地域との連携が気になる。（白塚地区）
- ◇商業施設から離れている地区では、高齢者はコンビニで買い物している。交通量が多く、子どもの事故が心配（栗真地区）
- ◇高齢化が進み、車がないと買い物が難しいところがある。また、新しい団地では隣近所とのつながりが薄いところがあり、地域の連携が気になる。（一身田地区）
- ◇交通の便が良い反面、渋滞が多く、通学時の安全対策が心配。一人暮らし世帯の増加や子育ての拠点不足、子育て世代（働く世代）のつながりが少ないことが課題となっている。（大里地区）
- ◇少子高齢化が進んでおり、空き家の増加や、田畑の維持管理が課題となっている。地区の役員になる人材が不足している。また、交通の便が悪い。（高野尾地区）
- ◇津市の中心地からは離れており、交通の便が悪い。また、高齢者の一人暮らし、高齢夫婦のみ世帯が増えてきており、空き家も増加している。（豊が丘地区）

■白塚地区

【目指したい5年後の地区の姿】

今までの良いところを引き継ぎ、新しいアイデアで住みよい街に
「温故知新」時代が変わろうが、絆

●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	子どもとふれあう機会をもって、地域に愛着をもってもらう。	➡	◇子どもの事業に目を向け、子どもとの交流会を行う。
2	学校、幼稚園と共同で、子どもたちとふれあう。	➡	◇親睦会を行い、会員（参加）の呼びかけを行う。
3	老人会、婦人会の復活。地域に関わってもらうための人材育成	➡	◇伝統的行事等地区の行事に、小さいときから楽しんで参加してもらう（関わってもらう）施策を行う。

■栗真地区

【目指したい5年後の地区の姿】

和気あいあい栗真地区プロジェクトをつくろう！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	世代間交流をし、若い世代の担い手を育成する（地元愛を育む。）。	➡	◇住民全体が参加できる行事を計画し実行する（楯干し、ふれあい運動会、ニュースポーツフェスティバルなど）。
2	地区ごとの特徴を生かした活発な活動をする。	➡	◇老人クラブ、サロンを活発にし、健康寿命を延ばす。
3	子どもの時から地域の防災に関心をもつ（地域に住み続ける。）。	➡	◇子どもが地域を点検（研究）し、防災マップをつくるなど、大人と交流する機会を増やしていく。

■一身田地区

【目指したい5年後の地区の姿】

国宝（高田本山専修寺）に負けない人づくり
目指せ！人間国宝100人！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	孤独を防ぐため、全世代の交流	➡	◇子どもから高齢者まで参加できる交流の場をつくる。
2	地域の絆（コミュニティ）を強くする。	➡	◇子ども（若者）が参加しやすい行事をつくり、つながりをつくる。
3	普段活動している人以外の住民が参加できる場をつくる。	➡	◇具体的に意見を聞き、話し合える場をつくる。

■大里地区

【目指したい5年後の地区の姿】

大里地区は三方よし！
なかよし♥住んでよし♥不安なし♥

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	若い人から高齢者まで住み続けたくなる地域にする！	➡	◇安心して子育てできる環境づくり（学童の継続、見守り隊、見守りベンチ設置、通学時間帯の農作業） ◇地域のさまざまな人の声を聞くために、まず「声を届ける」ことを心がける。

■高野尾地区

【目指したい5年後の地区の姿】

田畑を守り鶏めしで地域の活性化！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	子どもが大人になった時、地元に戻ってきたいと思えるまちづくり	➡	◇中高生の地域行事への参加を推進 ◇PTAや自治会等で地域ネットワークを強化し、声かけ運動を行う。 ◇地域のクリーンアップ運動 ¹⁹ を、連携して協働で行う。
2	60歳代、70歳代の人を地域の担い手に！	➡	◇自治会、地区社協、老人クラブで連携する。 ◇地域の人が集まり、話し合える場を増やす。

¹⁹ クリーンアップ運動：環境美化・清掃活動

■ 豊が丘地区

【目指したい5年後の地区の姿】

人にやさしく心豊かに過ごせる豊が丘

● わたしたちにできること

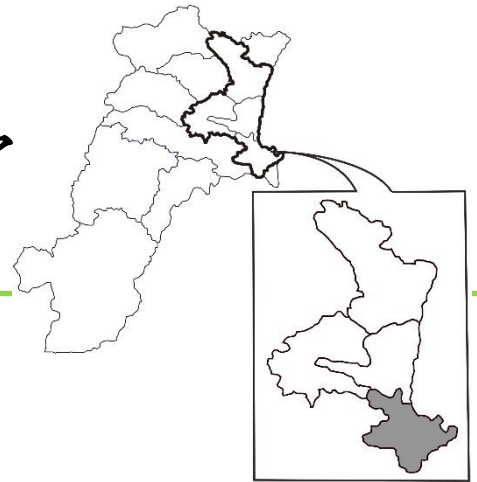
(目標と取り組み)

	目標		取り組み
1	歴史や施設の少ない地区だが、「つながり」を大切にしたい。	➡	◇子どもとともに取り組める事業をさらに増やす（夏休みの宿題教室）。
2	今行っている活動を「継続」する。	➡	◇単身世帯に目を向ける（高齢者に限らず）。



③

津南郊エリア



●南が丘地区 ●藤水地区 ●高茶屋地区 ●雲出地区

地区の現状

地区内には国道23号線、165号線、中勢バイパスが走り、通り沿いには大型スーパーや飲食店が並んでいます。

沿岸部は農業、造船業が盛んな地域で、御殿場海岸や競艇場等立地を生かした観光地がある一方、津波の心配は絶えません。

内陸部は企業と住宅地が中心で、現在も開発途中のため今後も人口の増加が予想されます。

また、こころの医療センターがあり特別支援学校や福祉施設が多いのも特徴です。

・人口	37,606人
・世帯数	16,831世帯
・65歳以上の割合	22.7%
・15歳～64歳の割合	63.4%
・0歳～14歳の割合	13.8%
・地区社協数	4
・自治会数	67

(平成30年10月31日現在)

●地区のいいところ

- ◇地域の助けあい体制ができているため、安全・安心で住みやすい。地区のイベントでのつながりが強く、駅、病院、スーパーなどがあり利便性も高い。(南が丘地区)
- ◇大型商業施設が多く生活が便利。住民が和気あいあいとしていて各団体と連携できている。(藤水地区)
- ◇高台にあり、災害が少ない。人口が多く、若い世代の流入もあるため、年齢層が幅広く、外国の人も多い。(高茶屋地区)
- ◇子どもから大人までが楽しめる場(さくら祭りなど)がある。住民が温かく、行事等に一致団結できる絆がある。(雲出地区)

●地区の気になるところ

- ◇自治会に属していない地域があり、顔の見える関係ができていない。子ども会・老人会の入会者が少ない。バイパスができたことによる交通量の増加で事故が心配。「防火」体制が脆弱である。自治会・地区社協等事務所がない。（南が丘地区）
- ◇津波の被害を受ける恐れのある地域で避難場所からも離れている。交通量が多く安全面が心配。アパートが多く地域の連携が取りにくい。地域のことに関心がない大人が多い。（藤水地区）
- ◇子どもの環境が多様になり、放課後の生活が気になる。独居高齢者が多く、高齢者の集まりはあっても世話をする人がいない。（高茶屋地区）
- ◇災害が発生しやすい地域のため、新しい住民が入らず少子高齢化が進んでいる。40～50歳代の地域活動が見えにくい。（雲出地区）

■南が丘地区

【目指したい5年後の地区の姿】

地域で輝く人材を増やしていこう

●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	子どもたちが地域の大人の顔を知る。	➡	◇清掃デー、地域の行事に参加する。 ◇あいさつをする。
2	いざというとき（地震や災害）の一人暮らし高齢者世帯への見守り	➡	◇民生委員、自治会（ご近所）等の横のつながりをもつ。 ◇回覧板等をポストでなく、手渡しで行い、声かけのきっかけをつくる（子どももいたら一緒に持っていく。）。

■ 藤水地区

【目指したい5年後の地区の姿】

あかるく、ほがらかに安心できるまち 藤水
～みなさんいらっしやい！～

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	みんなが取り組める防災	➡	◇地域のつながりづくりから地域の防災に関心をもってもらい、全員参加の防災へ
2	積極的な声かけで地域のつながりづくり	➡	◇小さなつながりから安心安全のまちづくりにつなげる。
3	若者・子どもと、高齢者・大人の集まる場所づくりを行い、顔を合わせて情報共有を図る。	➡	◇イベントに積極的に招待する。 伝統行事、地区運動会、バーベキュー

■ 高茶屋地区

【目指したい5年後の地区の姿】

みんなが笑顔でいられるような地域、
子どもへの支援の充実ができるあたたかい地域

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	子どもの安全と安心を守る。	➡	◇学校からのメールを地域の人でも受け取れるようにする。 ◇老人会の人々が自宅前で児童の登下校の見守りを行う。
2	元気な高齢者を増やしていく。	➡	◇ふれあい・いきいきサロンを増やすような研修をする。 ◇自治会やPTAなどの地域の団体に対し研修を実施し、高齢者を若い人が見守るしくみづくりを行う。

■雲出地区

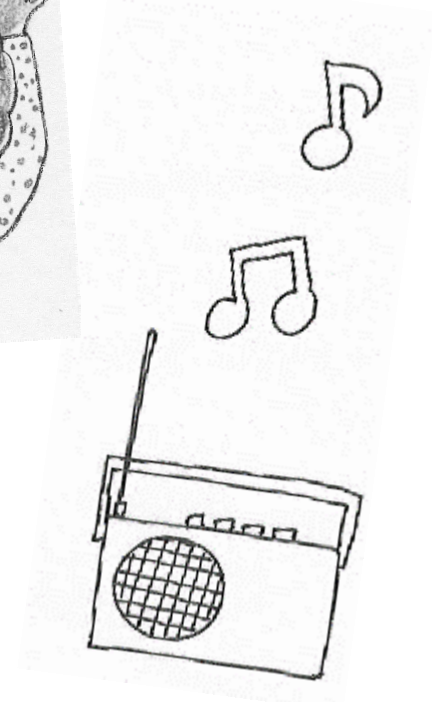
【目指したい5年後の地区の姿】

心も身体も健康なまち雲出

●わたしたちにできること

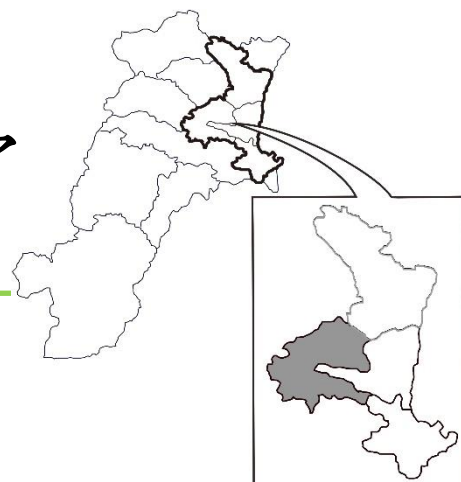
(目標と取り組み)

	目標		取り組み
1	子ども・親・祖父母の三世代が交流できる場所や機会づくり	➡	◇高齢者の健康づくり、交流の場づくりとしてラジオ体操の習慣をつくる。
2	子どもの親世代が地域の行事に積極的に参加してもらいたい。	➡	◇行事の内容を練って今まで参加しなかった人も来てくれるようにする。
3	住民の交流できる居場所づくり	➡	◇住民が気軽に集まり、交流できる場所をつくる。



4

津西郊エリア



- 安東地区 ●津西地区 ●楡形地区
- 片田地区 ●神戸地区

地区の現状

市街地に近い地区にはサオリーナ²⁰があり、また、生活圏域に県立の総合文化センター・図書館・博物館等もあり、文化の発展性がある地域です。また、高速のインター、病院にも近く利便性が高いです。田園地帯が広がっており緑も豊かです。

山間部地区では、交通の便が悪く獣害被害にも悩まされていますが、とても自然に恵まれています。

・人口	27,761人
・世帯数	11,670世帯
・65歳以上の割合	32.7%
・15歳～64歳の割合	55.8%
・0歳～14歳の割合	11.5%
・地区社協数	5
・自治会数	69

(平成30年10月31日現在)

●地区のいいところ

- ◇高速のインター、病院、市役所が近く、便利な地域である。田園地帯であるためゆったりと生活しており、単体集落ごとのまとまりがあり、昔ながらの行事も残っている。(安東地区)
- ◇県立の総合文化センターや博物館等があり文化の発展性がある。また、県庁や津駅等の津市の中心的地域に隣接しており、生活の環境は良い。(津西地区)
- ◇自然が豊かで、住民がおだやかで、住みやすい。ボランティアや職人等の人材による住民同士の支えあい活動がある。(楡形地区)
- ◇地域内で顔の見える関係ができていて、地域の人が小学校に協力的なので子どもからお年寄りまで安心して暮らせる、自然豊かなまち。(片田地区)
- ◇自然に恵まれた地域で、古くからの歴史があり、住民同士の交流（三世代交流）が活発でまとまりがある。(神戸地区)

²⁰ サオリーナ：津市産業・スポーツセンター内にある屋内総合スポーツ施設

●地区の気になるところ

- ◇新しい団地が増え、地区全体でのつながりが希薄化している。地区全体で集える施設等がなく、サロンやカルチャー的な集まりがない。（安東地区）
- ◇多くの団地が集まった地域であるため伝統的な文化に乏しい。団地ごとに年齢層に偏りがみられ、また団地間の交通が不便である。（津西地区）
- ◇交通の便が悪く買い物等が不便である。少子高齢化が進み一人暮らしが増え、空き家の問題や自治会の後継者問題等がある。（楡形地区）
- ◇少子高齢化が進んでおり、不安である。また、病院、ショッピングセンターなどの社会資源が少なく、移動手段も少ない。（片田地区）
- ◇バスの本数が少ない。また、交通量が多いため、子ども、高齢者への安全が懸念される。住民同士の縦横のつながりが薄いため、情報共有が難しい。（神戸地区）

■安東地区

【目指したい5年後の地区の姿】

安東を日本一住みやすい桃源郷にする

●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	子育てしやすい環境（地域）をつくる。	➡	◇世代間の交流によって、安東の文化（伝統）をつないでいく。
2	人のつながりから、元気な高齢者をつくる。	➡	
3	安東独自の魅力をつくる。	➡	



■津西地区

【目指したい5年後の地区の姿】

住まいは津西！最後まで津西！！お墓も津西！！！！

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	津西地区全体のまとまりをつくる。	➡	◇目線を変えた興味をもたれる催し物を考える。
2	人の集まる場所・機会をつくる。	➡	◇自治会、学校等との連携を深める。
3	大人と子どもが顔見知りになる。	➡	◇地域で日頃からあいさつをする（まずは顔を知ってもらう。）。見守り隊の充実

■櫛形地区

【目指したい5年後の地区の姿】

若い力の結集！生き生き元気たっしやでな～
～みなさんいらっしやい！～

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	子どもが地域に残れるような環境づくり（縦割りではなくみんなで取り組む場づくり）	➡	◇見守り活動「ささえあい とのふね」などの活動
2	住民同士の支えあい（声を出さない人に対しても）	➡	◇文化祭、防災をテーマに地域で交流ができる活動を企画
3	みんなで集まれる場をつくる。	➡	◇複合的な課題（子ども、障がい、生活困窮、高齢者等）をみんなで考えることができる、地域に密着した話し合いの場づくり

■ 片田地区

【目指したい5年後の地区の姿】

みんながお互い助けあって感謝の気持ち
をもって暮らせる片田地区

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	地域みんなで仲良くなろう（意識づくり）。	➡	◇笑顔で、大きな声で、あいさつをする（あいさつ強調月間をつくる。）。
2	顔のつながりや助けあいができる地域づくり	➡	◇声かけをする（見守りにつながる。）。
3	付き合い上手になろう。	➡	◇いざという時に備えて、周囲との関係づくりや子どもに助けてもらえる体制づくり

■ 神戸地区

【目指したい5年後の地区の姿】

若い世代が住みたいと思う魅力ある地域に住みたい

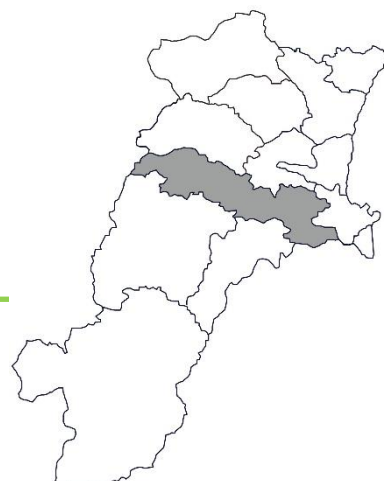
●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	魅力ある地域づくりによって、三世代の結びつきを深める。	➡	◇地域のイベント（祭り、交通安全教室、ボウリング大会、バーベキューなど）を多く開催し、そこでボランティア募集を呼びかける。
2	情報共有できる場づくり	➡	◇複数の組織が情報交換できる、定期的な会の開催
3	民生委員、民生委員サポーターだけでは手の届かない生活困窮者や、声が届きにくい人への関わりを強化する。	➡	

⑤

久居地区



地区の現状

自然環境に恵まれ、病院、学校、高齢者向け施設等が充実しているうえに住民に昔からの「助けあい」の気風の残る生活しやすいまちです。地区の課題としては、農業地の雨水被害・獣害対策、後継者不足や市街地の商業活性化、住宅地での転入者との共生のあり方、高齢化対策等があります。

・人口	44,785人
・世帯数	19,991世帯
・65歳以上の割合	25.2%
・15歳～64歳の割合	60.2%
・0歳～14歳の割合	14.6%
・地区社協数	7
・自治会数	118

(平成30年10月31日現在)

●地区のいいところ

◇平成10年、榊原・栗葉地区で地区社協が設立され、平成17年までに七つのすべての地区で地区社協が発足しました。平成18年には各地区社協の代表が参加し、意思の疎通を図りながら互いに連携・協力し、七地区全体の福祉活動の調和を図るための組織として久居七地区社協連絡協議会が設立されました。人口や産業、生活基盤、住民の気風等、地区ごとに違って当然ですが、そのことによって生ずる福祉課題の違いを特性と捉え、理解し、尊重し合うことを大切に、地区の交流を深めながら、共通の目標実現に向けて助けあう組織であることが、七地区社協の誇るべき点です。

●地区の気になるところ（10年間の反省から見えてきた共通課題）

◇ケアネット活動の推進

暮らしの場において、困りごとを抱えている人に気づき、助けを求める声に応答できる支えあいのしくみづくりが必要です。特に、困ったときに相談する人がいない人や、「助けて」と言えない人がいることを意識した取り組みが求められます。

◇サロン活動の充実

利用者の固定化や男性の参加が少ないなど、活動上の課題があります。参加対象の拡大や常設の憩いの場づくりなど、これまでの活動を礎に発展させていく必要があります。

◇活動の担い手と役員の後継者不足

組織の存続と活性化のため、活動を担う協力者と役員の後継者の確保が急務です。

【目指したい5年後の地区の姿】

地域に暮らす誰もが、気がねなく助けを求め、あたりまえに支えあえる地域の実現を志向し、地区社協・津市社協・行政・関係機関が力を合わせ、豊かな福祉活動をともに生み出している。

ひろがれ さいわい いっぱいのまち

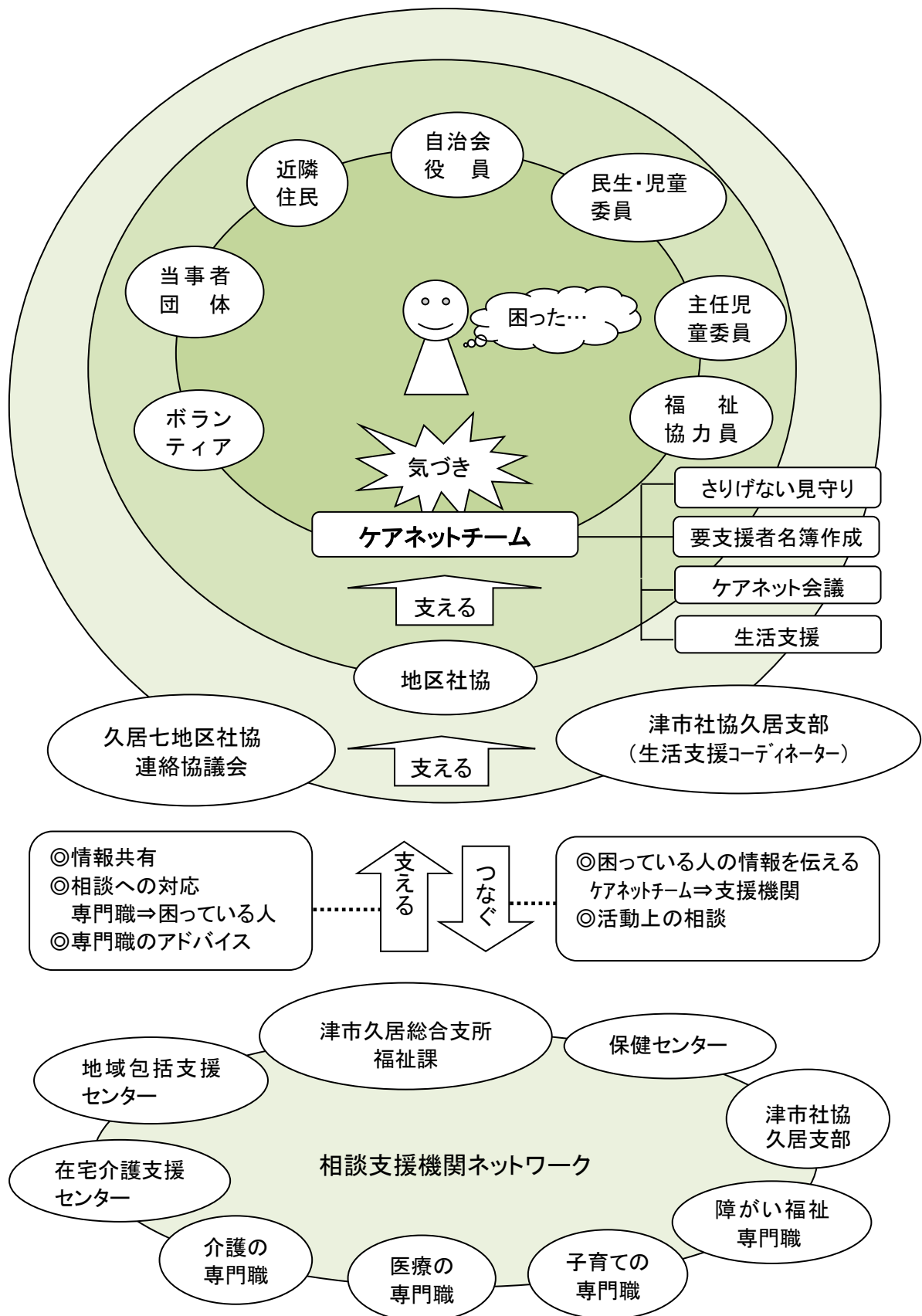
-共生社会の実現-

●わたしたちにできること

(目指すもの)

主題	「ふだんのくらしのしあわせ」
副題	「あいさつでつながる久居のまちづくり」 誰でもできる取り組みから、見守り・支えあい活動につなげる。
目標	目標達成のため、行動のあり方として、「やさしく しなやか」であることを念頭に置くものとする。 「やさしく」…お互いが人として尊重し合うこと 「しなやか」…生き方、考え方の違いを受容し、柔軟に対応すること ① 気にかけて運動（やさしく しなやか） 隣近所・街路等での見守り活動（語りかけと応答） ② みまもりケアネット活動 ケアネットチームの結成【小地域（100戸程度）に1チーム設置】 ③ ふれあいいきいきサロン 居場所の充実【小地域（100戸程度）に1サロン】 ④ 世代間交流活動 各種イベントの精選と充実【子ども、一人親家庭、高齢者の交流】 ⑤ 防災活動 避難所運営、福祉防災について研究協議を行い、災害発生に備える。 ⑥ 地区の特性を生かした活動 地区の産業、歴史、慣習等を生かした活動 ⑦ 広報活動 特に現役世代への周知を図り、後継者を育成する。 ⑧ 福祉政策・施策の点検活動 現場の実態を把握し、将来を見据えた支援のあり方について、公的機関・専門機関への働きかけを行い、対応・課題解決につなげる。
課題	① 人材 — 事務担当者と協力員の確保 ② 財源 — 必要な財源の確保と寄付金の活用 ③ 場所 — 活動拠点（事務所、サロン会場等）の確保 ④ 関係機関・専門職の支援充実 — 報告・連絡・相談・支援（対応）のシステムづくり ⑤ 交流と研修 — 活動の点検、改善、創造に役立てるための地区社協の意見を入れた研修機会の充実

みまもりケアネット概念図



【相談支援機関ネットワークを支える機関】
津市久居総合支所福祉課、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、津市社協久居支部

6

河芸地区



地区の現状

伊勢平野の中央部、伊勢湾に面した臨海平野部に位置し、海、山、川のすべてに恵まれ、かけがえのない豊かな自然を有する地域です。

河芸地区には、豊津・上野・黒田・千里ヶ丘と4つの地区社協があり、地域性を生かしたさまざまな活動を行っています。

・人口	18,763人
・世帯数	7,779世帯
・65歳以上の割合	27.4%
・15歳～64歳の割合	58.1%
・0歳～14歳の割合	14.5%
・地区社協数	4
・自治会数	26

(平成30年10月31日現在)

●地区の福祉活動



豊津地区防災訓練



上野地区立て干し網大会



黒田地区
老人と子どもの交流事



千里ヶ丘地区千里夏祭り
手作り子ども神輿2基

●地区のいいところ

- ◇地区社協でさまざまな事業を実施し、主体的に活動している。
- ◇地区社協で多くの世代間の交流事業を実施している。
- ◇ほとんどの地域でサロン活動が実施されている。
- ◇地域活動に携わっている人たちが熱心である。
- ◇学校と地域の関係性が良い。

●地区の気になるところ

- ◇地域との関係、隣近所との関係が希薄化している。

- ◇地域活動への参加が少ない。担い手も不足している。
- ◇地域で集える場が不足している。
- ◇偏見や差別がない地域にする必要がある。
- ◇一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の介護の問題がある。
- ◇認知症の人が行方不明になってしまうことがある。
- ◇地震や津波等の災害と、その対応への心配がある。
- ◇地域で活動するための資金面で課題がある。
- ◇高齢者の通院や買い物等の移動手段の確保が必要である。

【目指したい5年後の地区の姿】

笑顔あふれ、きずな深める河芸地区

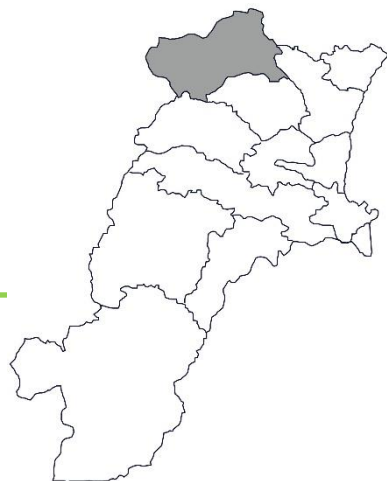
●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

基本方針			
① 声をかけ合い、ふれあいを大切にする地域づくり ② とともに生き、ともに学ぶ地域づくり ③ 安全・安心な地域づくり			
目標			取り組み
1	基本方針①のために・・・ ・笑顔で挨拶が交わせる地域づくり ・地域の行事や活動への参加の促進 ・地域で集える場の充実	➡	◇積極的に挨拶や声かけをする。 ◇地域の行事にはできる限り参加する。 ◇スポーツなどを通じて交流を深める。 ◇参加しやすい行事の実施に努める。 ◇行事やサロンへの参加を広く呼びかける。
2	基本方針②のために・・・ ・偏見や差別をしない地域づくり ・地域への関心や福祉への意識を高める。	➡	◇地域のなかで、子どもや高齢者、障がいのある人・ない人等、さまざまな立場の人がそれぞれの立場を理解し、その交流を進めていく。 ◇障がいや認知症、また福祉や介護の問題・制度等について学ぶ。
3	基本方針③のために・・・ ・防災や防犯への取り組みの充実 ・地域での見守り活動を進める。	➡	◇地域で行われる防災訓練への積極的な参加に努める。 ◇サロン活動等を通して、みんなの目で高齢者等を見守る。 ◇小中学校の登下校時の見守り活動を行う。

7

芸濃地区



地区の現状

芸濃地域は津市の北西部に位置し、水と緑に恵まれています。かつては、宿場町として栄えた歴史と伝統があり、龍王桜、石山観音、樹齢1500年以上といわれる大棕、錫杖ヶ岳、錫杖湖等の名所・旧跡が多くある地域です。一方で、高齢化等に伴う各種団体の後継者不足、移動手段の確保等が課題となっています。

・人口	8,644人
・世帯数	3,671世帯
・65歳以上の割合	30.4%
・15歳～64歳の割合	56.9%
・0歳～14歳の割合	12.8%
・地区社協数	1
・自治会数	61

(平成30年10月31日現在)

●地区の福祉活動



ふれあいサロン



福祉講演会



視察研修

●地区のいいところ

◇穏やかな人柄の人が多く、近所付き合いなど人と人とのつながりが強い。また、助けあいの人情がある。

◇住民のボランティア意識が高く、地区社協やさまざまな団体に活躍している。

◇比較的元気な高齢者が多く、サロンなどさまざまな活動を行っている。

- ◇さまざまなイベントが催され、住民の参画意識も高い。
- ◇緑が多く自然に恵まれ、名所や旧跡等観光資源が豊富である。
- ◇インターチェンジがある交通の要所である。
- ◇津波等の災害の心配が少ない。

●地区の気になるところ

- ◇高齢者（特に男性）等の社会参加の促進と見守り意識の充実
- ◇高齢化に伴う、空き家や耕作放棄地の増加
- ◇各種団体の高齢化や担い手の減少による組織の維持
- ◇若年者層との接点が少ない。
- ◇公共交通機関の利便性が悪く、自動車を運転しない人にとっては買い物等が不便

【目指したい5年後の地区の姿】

つながり・支えあい・暮らしやすい、
笑顔あふれる芸濃（まち）へ

●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	身近な場所を活動拠点とした、サロンなどの集いの場づくりと活動の推進	➡	◇サロンなどの集いの場づくりと参加促進のための声かけ運動
2	挨拶、声かけ運動による見守り・つながり活動の推進	➡	◇住民同士の挨拶や声かけを通じて、相互に心のつながりを大切にする。
3	高齢者等の生活支援のしくみづくり	➡	◇一人暮らし高齢者等、地域で困りごとを抱えた人への「気づき」「声かけ」「つながり」のための見守り意識の推進
4	地域行事を核にした子どもから高齢者までのつながりと担い手の育成	➡	◇多様な地域行事において、さまざまな人に参加を呼びかけ、新たな出逢い・つながりを育む。
5	若者から高齢者までのさまざまな世代がともに参画し、地域の将来について考えるまちづくり	➡	◇若い世代の意見が聞けるような「しくみ」や「場」をつくる。

8

美里地区



地区の現状

美里地域は津市の北西部に位置し、山地が多く、自然環境に恵まれています。昭和61年から、辰水神社に奉納されている「ジャンボ干支」や、長野地域の伝統行事である「かんこ踊り」など地域活動が盛んです。一方で、高齢化率の上昇による地域活動の担い手不足、交通手段の確保等が課題となっています。

・人口	3, 508人
・世帯数	1, 457世帯
・65歳以上の割合	39.5%
・15歳～64歳の割合	50.7%
・0歳～14歳の割合	9.8%
・地区社協数	1
・自治会数	16
(平成30年10月31日現在)	

●地区の福祉活動



新春福祉交流会



子育てサロン「ころころ広場」



ふれあい・いきいきサロン

●地区のいいところ

◇ボランティア精神の旺盛な人が多く、行事への積極的な参加・協力が得られることが、地域づくりへと繋がっている。

◇町外に出ても、比較的美里近郊に居住する人が多い。

◇地域行事が盛んであり、住民同士の繋がりをつくる場となっている。

●地区の気になるところ

◇進学や就職等により若者が流出している。

◇出生率の低下

◇地域活動の担い手が不足している。

◇高齢者世帯及び一人暮らし高齢者の増加により買い物や通院に困っている。

【目指したい5年後の地区の姿】

- ・既存の地域行事を継続し、世代間交流の盛んな地区
- ・集まる場があり、困った時に協力し合える地区
- ・買い物や通院等の不安を軽減し、安心して生活できる地区

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	行事を継続する。	➡	◇子どもが参加する行事には幅広い世代の参加が見込めるため、地域の実情に応じた方法で継続する。
2	集える場所を増やし、困った時に協力し合える体制をつくる。	➡	◇内容は問わず「集まる場」を増やす。 ◇既存の取り組みを無理のない範囲で継続する。
3	買い物等、生活の不安をなくす。	➡	◇住民同士で協力しながら、移動販売やインターネット販売等の資源を活用していく。
4	困りごとのある人が適切な支援を受けられることができる。	➡	◇「集まる場」を増やし情報共有を行うことで、気がかりな人を発見しやすくする。

9

安濃地区



地区の現状

安濃地域には、草生、村主、安濃、明合と4つの地区社協があります。地域の福祉活動をより円滑に推進していくために、安濃地域社会福祉連絡協議会が平成20年8月18日に設立されました。連協を母体とする「みまもり研究会あのを」やサロン専門部会が協議体として「住民による住民のための住民の福祉活動」を進めています。

・人口	10,480人
・世帯数	4,325世帯
・65歳以上の割合	30.9%
・15歳～64歳の割合	58.2%
・0歳～14歳の割合	10.9%
・地区社協数	4
・自治会数	47

(平成30年10月31日現在)

地区の福祉活動



なごやか交流会



みまもり研究会あのを



サロン専門部会
レクリエーション講習

地区のいいところ

◇昔からのご近所付き合いに加え、地区社協や老人会等の行事に気軽に参加することにより、より一層つながりを深めている。また、サロンも徐々に増えてきている。

◇毎年、65歳以上の一人暮らし高齢者を対象とした「なごやか交流会」を安濃地区民生委員・児童委員の協力のもと実施している。

◇生活のなかに潜む異変を早期に発見するため、視点を「気づき」に置いて、住民一人ひとりの意識改革を進め「見守りネットワーク」の構築を目指している。

●地区の気になるところ

◇老人会等の福祉関係団体については、各会員の入会率が減少傾向にある。

◇高齢者の課題は見えてきやすいが、若い世代の声が届かない。

【目指したい5年後の地区の姿】

Ano keep a loving eye

私たち（安濃）は立ち止まらない！！

地域の安心・安全な生活環境へ

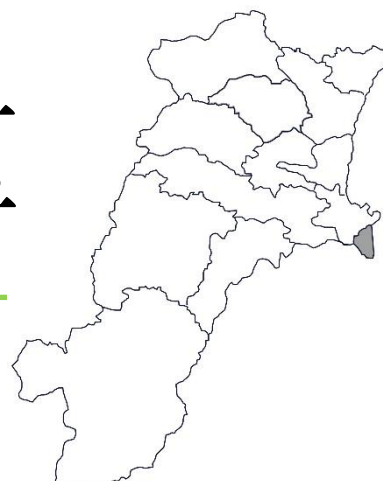
●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	サロン活動の推進 （毎年4サロンの増加）	➡	◇自治会や民生委員の協力を得よう。 ◇サロン専門部会で勉強会やレクリエーション研修を実施しよう。 ◇誘い合わせるなど互助の精神やみまもりの心を大切にしよう。
2	見守りネットワークの構築 〔毎年3区（単位自治会）の増加〕	➡	◇「きざしと気づき」小さな異変を意識してつなげていこう。 ◇意識して、あいさつや声かけをして絆を深めていこう。
3	世代間の交流	➡	◇話し合いの場にいろんな世代の人に参加してもらおう。 ◇伝統行事、サロン活動、地区社協事業に誰もが参加できる工夫をしよう。 ◇小学校の運動会に地域で参加しよう。
4	お互いさま活動	➡	◇買い物や外出支援で困っている人がいれば、声をかけてあげよう。 ◇お隣の困りごとに手を貸そう。
5	継続した研修・研究	➡	◇他地域の事例を研究し安濃地域にあったしくみづくりを考えていこう。

10

香良洲地区



地区の現状

雲出川と伊勢湾に囲まれた周囲約10kmの三角州でコンパクトな地域です。伝統行事の宮踊りやお木曳^{きひき}が、自治会事業として住民により実施、継承されている絆の強い地区です。

・人口	4,653人
・世帯数	1,993世帯
・65歳以上の割合	35.0%
・15歳～64歳の割合	54.5%
・0歳～14歳の割合	10.5%
・地区社協数	1
・自治会数	9

(平成30年10月31日現在)

●地区の福祉活動



香良洲地区敬老会



ふれあい・交流事業
餅つき大会



地域福祉の集い

●地区のいいところ

- ◇人と人の繋がり、絆がある。地域の団結力がある。
- ◇津市サンデルタ香良洲は住民が集える拠点施設として多くの人々が利用している。
- ◇旧香良洲町時代からの伝統行事、文化が引き継がれている。

●地区の気になるところ

- ◇近年、町内9区では一人暮らし高齢者が増え、空き家も目立ってきた。
- ◇地域活動の担い手が高齢化し、後継者不足で将来が不安である。
- ◇地区の生活道路は道幅が狭く、災害時の避難に不安を感じる。
- ◇男性の集まる場所（居場所）が少ない。

【目指したい5年後の地区の姿】

お互いさま 支え・助けあいで、
絆のあるまち

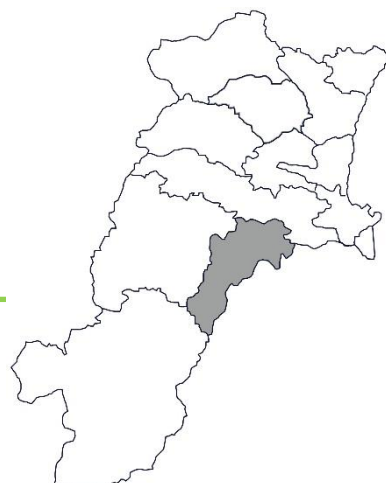
●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	絆の深い地域を継承	➡	◇住民で取り組んでいる「からすっこ お互い さま 助けあい活動」を継続的に取り組み、 向こう三軒両隣で助けあい、見守りを行う。
2	男性が参加しやすい魅力ある居場 所づくり	➡	◇津市社協香良洲支部と地区社協が連携し て、教室やサロンの開催を地域住民に提案 する。 ◇地区のサロン担当者と連携を図って取り組 む。

11

一志地区



地区の現状

津市の南部に位置する一志町は、南端部に「矢頭山」があり、矢頭の大杉は三重県の天然記念物になっています。

川合・高岡・大井・波瀬の4地域から構成され、大井、波瀬地域は高齢化が進んでいます。各地域とも特徴を生かした地域活動を行っています。

・人口	15,274人
・世帯数	6,374世帯
・65歳以上の割合	30.2%
・15歳～64歳の割合	57.0%
・0歳～14歳の割合	12.9%
・地区社協数	1
・自治会数	65

(平成30年10月31日現在)

●地区の福祉活動



一志町ふれあいまつり



福祉運動会



ふれあい・いきいきサロン

●地区のいいところ

◇山と川、自然に恵まれ、ほどよく都会であり、ほどよく田舎、静かで暮らしやすい町。

◇和やかな人間関係、人付き合いがよい。車で市街に出やすい。

◇各地域の組織団体等でのイベント活動が盛んである。

●地区の気になるところ

- ◇地域が過疎化し空き家も増加しており、10年後の生活に不安がある。
- ◇近所付き合いの希薄化、組織活動への参加が少しずつ減少してきている。役員のなり手が少ない（組織の維持が難しくなっている。）。
- ◇地区ごとに課題が異なり、課題を一志町全体として捉えにくい。
- ◇公共交通機関の便が悪く、利用率も低い。免許返納後の外出手段が心配である。
- ◇子どもの遊び場が少なく、大人と子どもが交流する機会が少なくなっている。

【目指したい5年後の地区の姿】

団塊世代の高齢者が後期高齢者になった時、安心して活動できるように真剣に丁寧に対応することが大切

子どもから高齢者までいきいき
と活動する一志町

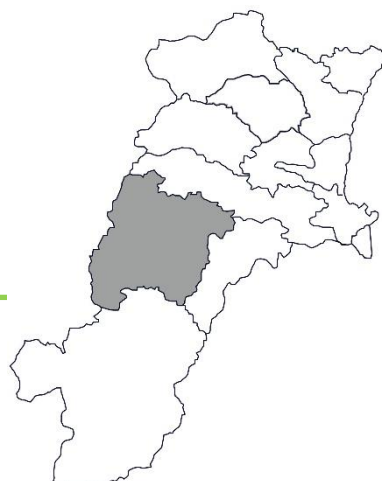
●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	サロンを増やしていく（サロンの拡大）。	➡	◇サロン活動の継続、啓発を行っていく。 ◇運営資金を得るイベントを行う。 ◇魅力あるプログラムとイベントの開催（魅力あるサロンづくりの支援を行う。）
2	自治会活動の活性化	➡	◇住民が顔を合わす場づくり（組の付き合いを増やしていく。会合の雰囲気づくり）
3	役員（後継者）の担い手の育成（育成のしくみづくり）	➡	◇他所の担い手育成方法を参考にする。 ◇少しずつ地域組織に関わって経験を積んでもらう人を増やす。
4	子どもと親の居場所づくり	➡	◇とことめの里一志の活用 ◇子どもが遊べる環境をつくる。 ◇地区での交流事業（みんなが参加できる、親子でふれあう機会を設ける。）
5	健康寿命をのばそう。	➡	◇健康に関する事業等に積極的に参加し、一人ひとりが介護予防に努める。

12

白山地区



地区の現状

白山町は西部と南部を中心に山地が広がり、町域の約70%を山林が占め、雲出川の中流域にある地区です。

65歳以上の割合が40.0%、出生数が少なくなっている現状から、今後の少子高齢化や人口減、住民同士の関係希薄化が予想されるため、地域活動の担い手不足や移動手段の確保が課題となっています。

・人口	10,883人
・世帯数	4,925世帯
・65歳以上の割合	40.0%
・15歳～64歳の割合	51.1%
・0歳～14歳の割合	8.9%
・地区社協数	1
・自治会数	110

(平成30年10月31日現在)

地区の福祉活動



白山地域の福祉を考える会



筋力モリモリクラブ



魚つかみ大会

地区のいいところ

- ◇医療機関、介護保険施設や介護事業所等の連携体制がつくられつつある。
- ◇中高年を中心に地域行事等の奉仕活動が盛んで、ボランティア活動への参加者も多い。
- ◇自然環境に恵まれており、人々の癒しの空間となっている。
- ◇産業基盤の中心は農業で、特に「一志米」の主産地である。
- ◇歴史的な遺跡や文化的遺産がある。地域の伝統行事が継承されている地区がある。

●地区の気になるところ

- ◇日常生活に必要な商店等がなくなってきており、不便になってきている。
- ◇子どもが自然の中で遊ぶことが少なくなっている。
- ◇サロンや各種団体の担い手の後継者不足が心配される。
- ◇自分で運転できない人、買い物や通院等介護サービスを受けていない人の移動手段が少ない（タクシー事業者が無くなった。）。

【目指したい5年後の地区の姿】

白山町で暮らす人が 元気に活動できる地域づくり

●わたしたちにできること

（目標と取り組み）

目標			取り組み
1	子どもや子育て世代が住みやすい環境を整えよう。	➡	◇子どもや子育て世代が何を望んでいるのか話し合いの場をつくる。 ◇子どもの遊ぶ機会をつくる。 ◇参加しやすい地域の行事を考える。 ◇子育てサロンや支えるボランティア団体をつくる。
2	高齢者が元気に活動できる環境をつくろう。	➡	◇身近な地域での居場所（サロン）を増やす。 ◇運動（体操）の多様な機会をつくる。
3	障がいのある人と地域のつながりを深めよう。	➡	◇地域のイベントに参加を促す。 ◇地域と障がいのある人との交流を行う。 ◇小学生との交流を継続して行っていく。
4	生活困窮を抱えている人を地域全体で支えよう。	➡	◇困っている人を気にかけて、関係機関につなげる。 ◇地域で役割をもち、親しみやすい関係の中で接していく。 ◇お互いさまの精神で食糧等を提供できるしくみづくりを検討する。
5	地域で支えあいの意識を育もう。	➡	◇支えあいボランティアへの気運を高める。 ◇地域に対して福祉を考えてもらう機会をつくる（白山地域の福祉を考える会の充実、啓発活動等）。

13

美杉地区



地区の現状

津市の南西部に位置する美杉町は集落が点在し、森林が多くを占める豊かな自然に恵まれた、県内唯一の森林セラピー基地です。平成30年10月31日現在では高齢化率が59.2%と非常に高くなっています。住民同士の繋がりが強く、日頃から、見守り、支えあい、助けあいができており、思いやりの心が育っている地域です。

・人口	4,319人
・世帯数	2,255世帯
・65歳以上の割合	59.2%
・15歳～64歳の割合	37.8%
・0歳～14歳の割合	3.0%
・地区社協数	1
・自治会数	131

(平成30年10月31日現在)

地区の福祉活動



ふれあいの集い



いきいき集会



Happyな子育て応援フェスティバル
(杉の実作業所体験)

地区のいいところ

- ◇住民の繋がりが強く見守り活動も盛んで「助けあい」がしっかりできている。
- ◇何事もできるだけ多くの人が集まって取り組もうとしている。
- ◇自然が多く、空気や水がきれいな田舎である。
- ◇史跡、歴史的な名所が多い。

◇町内の小学校と中学校が小規模校転入学特認校である。

●地区の気になるところ

- ◇高齢化率が59.2%と高い。
- ◇日常生活にかかわる商店が少なく買い物が不便。
- ◇土砂災害の危険がある地域が多い。
- ◇獣害がひどく荒れている農地が多い。
- ◇若い人が少なく地区の伝統行事の担い手がいらない。

【目指したい5年後の地区の姿】

住民同士のつながりによって
元気に暮らせるまち

●わたしたちにできること

(目標と取り組み)

目標			取り組み
1	いつまでも元気に暮らせるまちづくりを目指す。	➡	◇サロン活動を継続、普及できるように人材育成していく。 ◇地域での社会参加活動に参加する機会を増やす（スポーツ、創作活動、文化活動）。 ◇医療について相談できる場づくり
2	全住民が安心・安全に暮らせる地域をつくる。	➡	◇昔ながらの近所付き合いができるように相手を思いやる気持ちをもつ。 ◇交流する場を増やす（サロン、地域の集まり）。 ◇地域全体で見守りができる環境づくり
3	豊かな自然を残した地域で暮らせる環境をつくる。	➡	◇防災意識をもち、災害に備える。 ◇現在の整備された交通網が活用できるように考える（住民が使いやすいように）。
4	地域の絆が深まるまちづくり	➡	◇地域の子どもたちと交流をもつ場をつくる。 ◇子育て世代への理解、相談しやすく、お互いさまの精神で手助けができる環境をつくる。

